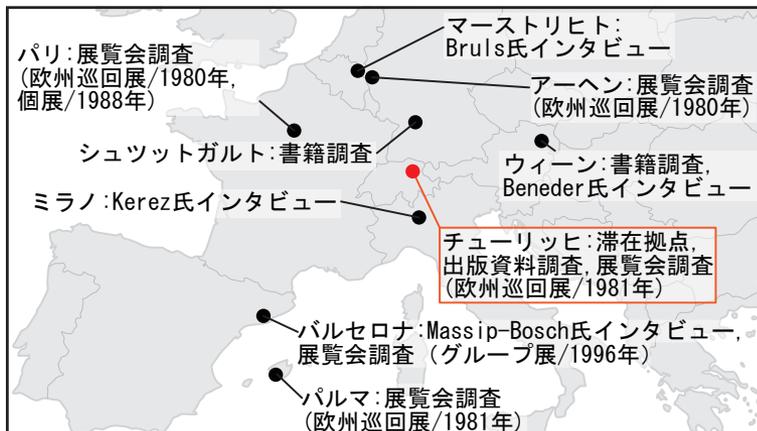


# メディアを通じた篠原一男の海外評価に関する研究

東京工業大学 環境・社会理工学院建築学系 小倉宏志郎

## 1\_研究概要

スイス連邦工科大学チューリッヒ校、建築歴史理論研究所で客員研究員として研究活動を行った。建築家、篠原一男のヨーロッパを中心とした海外での評価に関して、篠原が書籍や雑誌、展覧会などで行った作品発表を対象に調査を行うとともに、篠原の設計活動や作品発表に関わった建築家や、研究者へのインタビューを実施した。



▲ 調査訪問地とその内容

## 2\_調査日程

在外期間：2023年4月5日-2023年9月4日

### ・書籍調査

5/2 Fraunhofer Institut (シュツットガルト)

5/16 TU Wien Bibliothek (ウィーン)

### ・アーカイブ訪問

6/9 バエアレス建築家協会 (パルマ)

6/12 カタルーニャ建築家協会 (バルセロナ)

7/4-7 フランス建築家協会 (パリ)

7/20 ETH Zürich (チューリッヒ)

### ・インタビュー

5/16 Ernst Beneder氏 (ウィーン)

6/10 Enric Massip-Bosch氏 (バルセロナ)

7/12 Mathieu Bruls氏 (マーストリヒト)

7/13 Manfred Speidel氏 (アーヘン)

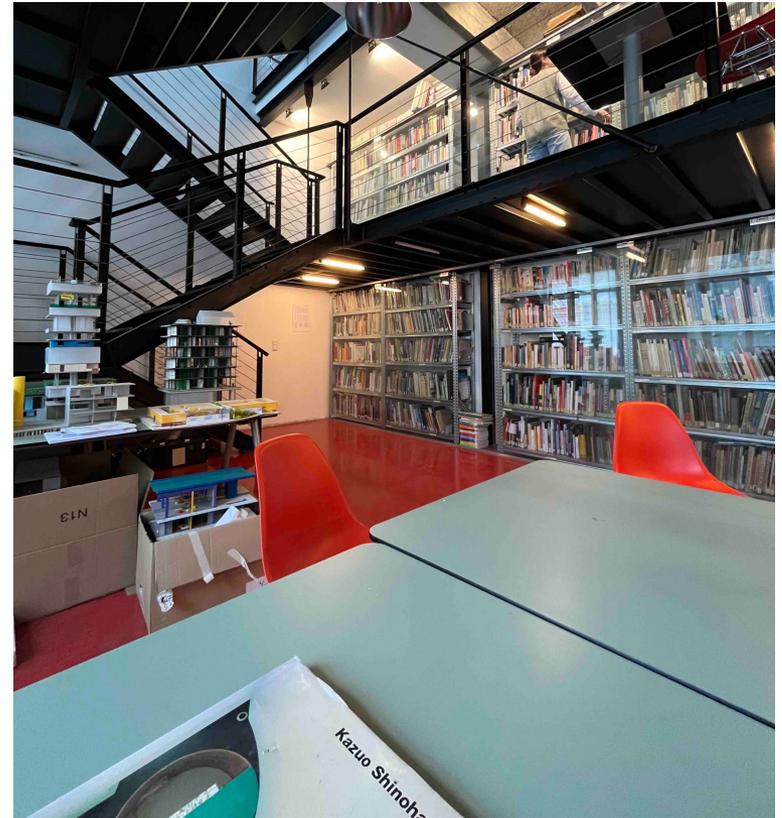
8/17 Christian Kerez氏 (ミラノ)

### 3\_書籍調査

篠原が生前に行った作品発表は、篠原自身が作品集でリスト化しており、本調査では日本で確認が難しい、欧州各地で発行されている建築専門誌をはじめ、海外での出版による作品発表について、リストに掲載されたものを調査・確認した。

7ヶ月間の調査を通して、作品発表リストに掲載された海外での出版物のうち、これまで未確認だった7割超を確認したとともに、リスト未掲載の作品発表を30件程度発見した。

これらの出版資料から、どの作品が発表され、またどのような文章、図面、写真が使用されたかを精査し、篠原の試みた出版物を通じた作品発表の総体を明らかにし、今後その成果をまとめ、博士論文の執筆、また論文誌への投稿を予定している。



▲ 書籍調査で訪問したTU Wien 住居デザイン学科図書室

## 4\_展覧会調査

篠原の生前行われた欧州での展覧会には、1つの巡回展（5会場）、3つの個展、11のグループ展があり、巡回展と5のグループ展では図録が出版されているが、各展覧会での出展作品や日時、会場などの詳細、キュレーターなどは明らかになっていなかった。

今回の在外調査ではまず、これまでの書籍調査を通じて上記の展覧会の会期、会場、主催者、キュレーターについて事前調査を行った。



▲ 篠原の欧州巡回展を主催したフランス建築家協会のアーカイブ



▲ 欧州巡回展会場であったパルマのバエアレス建築家協会

その後、事前調査で判明した当時の会場や主催者に問い合わせ、各地の建築家協会や大学など4件のアーカイブへ訪問、展覧会のキュレーターや当時の担当者2名にインタビューを行い、1979年から行われた欧州巡回展はフランス建築家協会（SADG、現在のSFA）が主導的に欧州各地での巡回を企画していたことを明らかにした。また、出版資料から情報が得られなかった1989年にマーストリヒトで開催された個展について、Mathieu Bruls氏が企画者、キュレーターであったことがわかり、さらにこれが前年のパリでの個展からの巡回であることが判明した。



**Ernst Beneder氏**  
(オーストリア、ウィーン)  
東工大 篠原研究室に研究員として留学、のちにウィーンにて独立後、1997年にウィーン郊外の街Kremsで開催された篠原の個展の実現に尽力された。



**Enric Massip-Bosch氏**  
(スペイン、バルセロナ)  
篠原アトリエで所員として勤務し、その後バルセロナにて独立。1988年のパリでの篠原の個展に所員として関わり、帰国後もスペインを中心に欧州圏で篠原の紹介に貢献された。また篠原を題材とする博士論文を執筆した最初の研究者である。



**Mathieu Bruls氏**  
(オランダ、マーストリヒト)  
アイントホーフェン工科大学を1986年に卒業されたのち、マーストリヒトで建築家として独立、その後すぐ1989年にマーストリヒトで開催された篠原の個展において企画者、キュレーターとして活動された。



**Manfred Speidel氏**  
(ドイツ、アーヘン)  
ブルーノ・タウトの研究者で、現在アーヘン工科大学名誉教授。1966年から1975年まで早稲田大学に留学し、その後アーヘンへ移る。1979年から開催された篠原の欧州巡回展のうち、1981年のアーヘン会場での展示を担当された。



**Christian Kerez氏**  
(イタリア、ミラノ)  
現代スイスを代表する建築家のひとりであり、現在スイス連邦工科大チューリッヒ校教授。1980年代後半からスイスで篠原に注目した建築家であり、現在のスイスやドイツ語圏をはじめとした欧州での篠原受容に多大な貢献をされてきた。

## 5\_インタビュー調査

展覧会調査と並行して、篠原研究室や篠原アトリエで勤務された建築家、欧州での展覧会の関係者、海外での篠原評価に貢献された建築家の方など、5名の建築家、研究者にインタビューを行った。インタビューを通じて、篠原の出版や展覧会を通じた欧州での作品発表に、直に関わった経験をお聞きすることができた。特に、図録や出版物だけでは窺い知ることのできない、欧州での篠原の活動に関与した人々のネットワークに触れることができ、Massip-Bosch氏へのインタビュー中に、他に情報のなかったマーストリヒト展のキュレーターであったBruls氏をご紹介いただき、インタビューへとつながったことは貴重な体験であった。

篠原は、住宅という小さな建築を設計しながら、国際的な評価を得た建築家であり、その評価形成にはメディアでの作品発表、そして今回インタビューしたような関係者の貢献が大きいと考えている。今回得られた成果を糧に、これからのありべき建築家の職能と実践を模索していきたい。